

## 2023 年度（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）千葉県地球温暖化防止活動推進員

### 二酸化炭素排出量実態調査・「エクセル環境家計簿」集計・分析評価表

2024 年 8 月 9 日

NPO 温暖化防止ながれやま

脱炭素プロジェクトチーム 平手 彰

#### 1) 母集団の特性

今回は「エクセル環境家計簿」（資料 1）の県センターへの提出者から有効なデータ 21 名の集計・分析評価表とした。今回の調査では集合住宅の回答比率が多かった。一方 PV 戸建は横這いで推移しているが、FIT 終了後の自家消費増加傾向反映されている。

年度 %	21 年度	22 年度	23 年度
戸建住宅	48	41	38
PV 戸建住宅	29	33	33
集合住宅	23	26	29

#### 2) 2030 年目標（家庭部門・13 年度比 66%削減）ロードマップ

直近 3 年は省エネ効率の高い上記の傾向が反映され、66%削減目標をも下回る低減を達成した。

トン-CO <sub>2</sub>	2013 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2030 年度
推進員実績	4.8	3.0	2.6	2.1	1.6
66%削減目標	4.8	3.3	3.1	3.0	1.6

#### 3) エネルギー源からの二酸化炭素排出量

ウクライナ戦争以降の燃料費高騰で電気・ガスの消費節約傾向が顕著に現れている。ただし健康快適（冬期のヒートショック・夏期の熱中症回避）のため、節電より本来の省エネ対策が必須。

k g-CO <sub>2</sub>	2021 年度	2022 年度	2023 年度
電気	1,434	1,294	917
都市ガス・LPG	567	482	351
灯油	222	117	69
ガソリン	762	688	712
合計排出量（トン）	3.0 (2.985)	2.6 (2.581)	2.0 (2.049)

#### 4) FIT 終了後の PV 住宅のオール電化急増および自家消費量急増

%	2021 年度	2022 年度	2023 年度
PV 宅 オール電化率	3.9	4.0	5.7
自家消費/自家発電	3.8	4.7	5.7

売電収入 > (買電代 + ガス代 + 灯油代) で 10 年間エネルギー節約志向の少なかった? FIT 享受世帯は、この間本来の省エネルギーが進んでいなかった。補助金による蓄電池の購入やオール電化で電気の時間帯別料金に関心が移り、HEMS の導入や断熱、換気による住環境改善で省エネを実感できるようになった。

#### 5) 住宅種別二酸化炭素排出量 (トン)

トン	2021 年度	2022 年度	2023 年度
戸建住宅	3.9	3.1	3.2
PV 戸建住宅	2.1	1.9	0.7
集合住宅	2.6	2.6	2.3
<b>加重平均</b>	<b>3.0</b>	<b>2.6</b>	<b>2.1</b>

#### 6) 住宅種別光熱費 (ネット電気代 (買電 - 売電) + ガス代 (都市ガス + LPG) + 灯油代)

千円/年間	電気代	ガス代	灯油代	合計光熱費
戸建住宅	112	33	3	148
PV 戸建	41	17	4	62
(内オール電化)	59	0	0	59
集合住宅	87	38	1	126
<b>加重平均</b>	<b>81</b>	<b>29</b>	<b>3</b>	<b>113</b>

#### 7) 脱炭素社会へ向けての省エネのヒント

何事も数値目標を持たなければマネジメントサイクル (PDCA)、すなわち持続性ある行動につながらないのと同じく、省エネは口で言うのは簡単だし誰でも知っているつもりですがアクションの効果がわかりません。推進員なら自分 (世帯) の立ち位置を環境家計簿から計算し、上記と比較することから始めましょう。特に高齢者住宅は熱中症やヒートショックの起こらない住環境整備、屋内の空気清浄化が最優先です。その観点で高齢者は安全・安心・快適なエネルギーを選択し行動することが望まれます。

- ① 戸建住宅：集合住宅への転居、又は全開口部の断熱化と換気設備による住いの健康快適化優先
- ② 集合住宅：オール電化と再生エネ 100%からの電気購入に切り替え
- ③ PV 住宅：売電を蓄電し自家消費率向上およびオール電化 + 再生エネ 100%買電へ切り替え

以上